

ものづくり大学発

読者の皆さんの近所でも ■ 空き家に木を「つかう」最近、空き家を目にすること 意義

ではありませんか？ 全国の空き家数は約84.6万戸（空き家率13・6％、平成30年）といわれています。埼玉県内でも空き家の数は約34・6万戸（空き家率10・2％、平成30年）で、その比率は真北部・西部を中心に高い傾向にあります。これは地方だけの問題でなく、我が国では人口減少、縮小社会を目前に、約20年後には3軒に1軒が空き家になるといわれています。

では建築で何が可能かといえ、戦後75年以上が経ち、かつて造林された杉や桧が伐採期を迎えており、木造の促進に期待できます。木造「建築」とまで大掛かりでなくとも、木質空間として他素材とともに適材適所に木を取り入れたハイブリッドな木の使い方は、実現しやすいでしょう。住宅業界でも空き家対策が急務であり、戦後造林の杉などを使った木質化を試みることは、極めて合理的な問題です。

解決策です。木造住宅は人が住まないと、やがて朽ちていきます。敷地内の植栽や庭も剪定(せんてい)や草抜きなどを怠れば荒れていきます。つまり、住宅や庭をめぐる維持管理が重要なのです。

比較的、柔らかく加工しやすい木材を使ったDIYを有意義で楽しいと感じていることが分かりました。コロナ禍で暮らし方や働き方も変容している現在、住宅やオフィスなど人が長く使う居場所を、どのような程度、コストが削減されるか、という疑問をよき聞きますが、むしろ、住宅をつくる人と使う人の極端な分断が大量消費や大量廃棄を及ぼし、過剰な生産コストをもちあわしていると考えられます。

経済的な観点を重視させるの
 かもしれません。しかし、住
 宅に住む、住宅を使う当事者
 として、住宅の一部でも木を
 使って修理することやつくる
 ことに関わることで、愛着が
 も取り戻してくれます。これ
 から日本中で増加する空き家

とは単にコストだけでなく、自身や家族のものだからこそ、つくることにも携わり、もの全体やその仕組みを把握する姿勢に繋がり、住宅を大切に扱つことが楽しいライフスタイルをもたらす長い人生のモチベーションになるのではないのでしょうか。

今春、自らも空き家の一戸をポジティブな空間資源として位置付け、彩りたいと考えています。欧米の中古住宅のように多様な価値を与える可能性を意識して、建築を学ぶ学生たちと共に活動していきたい次第です。皆さんもぜひ身近な空き家や木質空間を意識して過してみてください。

空き家 × 木質空間

当研究室では木のものづくり教育を空き家改修や木質空間の設計・施工に生かす実践を試みています。本学の実習を経験した学生たちへの調査で、地良い空間になります。

は、自ら空き家改修を行った。■「自らも一つくる」・す
住宅に暮らしてみたいと思う」■当事者意識
学生が少なからずおり、特に DIY によってプロに頼む

